



女性や子どもが自分らしくのびのびと
生きることができる社会を目指して

認定NPO法人 女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ

〒650-0022 神戸市中央区元町通6-7-9 秋毎ビル1階
(特) 市民活動センター神戸気付
TEL・FAX 078-754-9320
E-mail : womens-net-kobe@nifty.com
<https://wn-kobe.or.jp/>

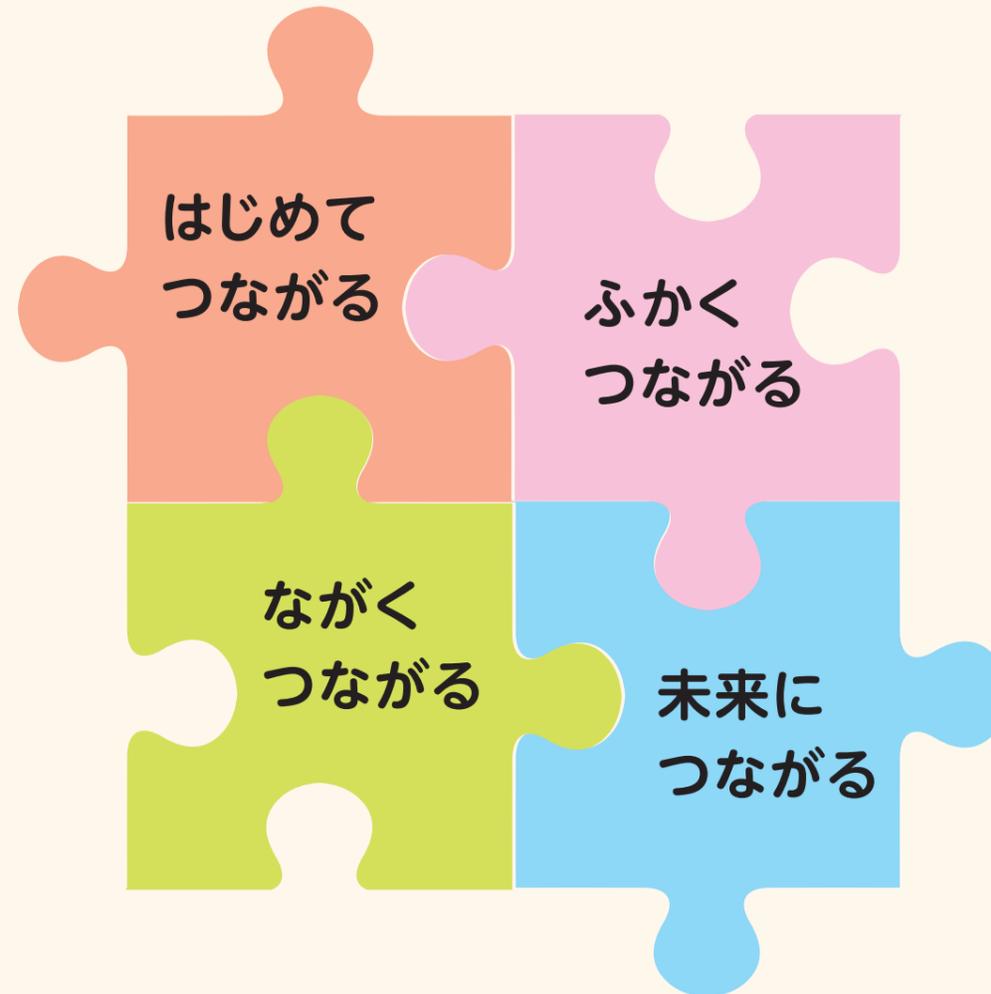
2023年7月発行

認定NPO法人 女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ

つながる～ウィメンズネット・こうべの 伴走型支援～

はじめてつながる…P3-4

- 電話相談
- メール相談
- 面接相談



ふかくつながる

- ともだちの家…P5
(シェルター)
- ステップハウス…P6
- 居住支援…P7
- 同行支援 & 家庭訪問支援…P8

ながくつながる

- WACCA b (ふらっと) …P9
- WACCA+ (ぶらす) …P10

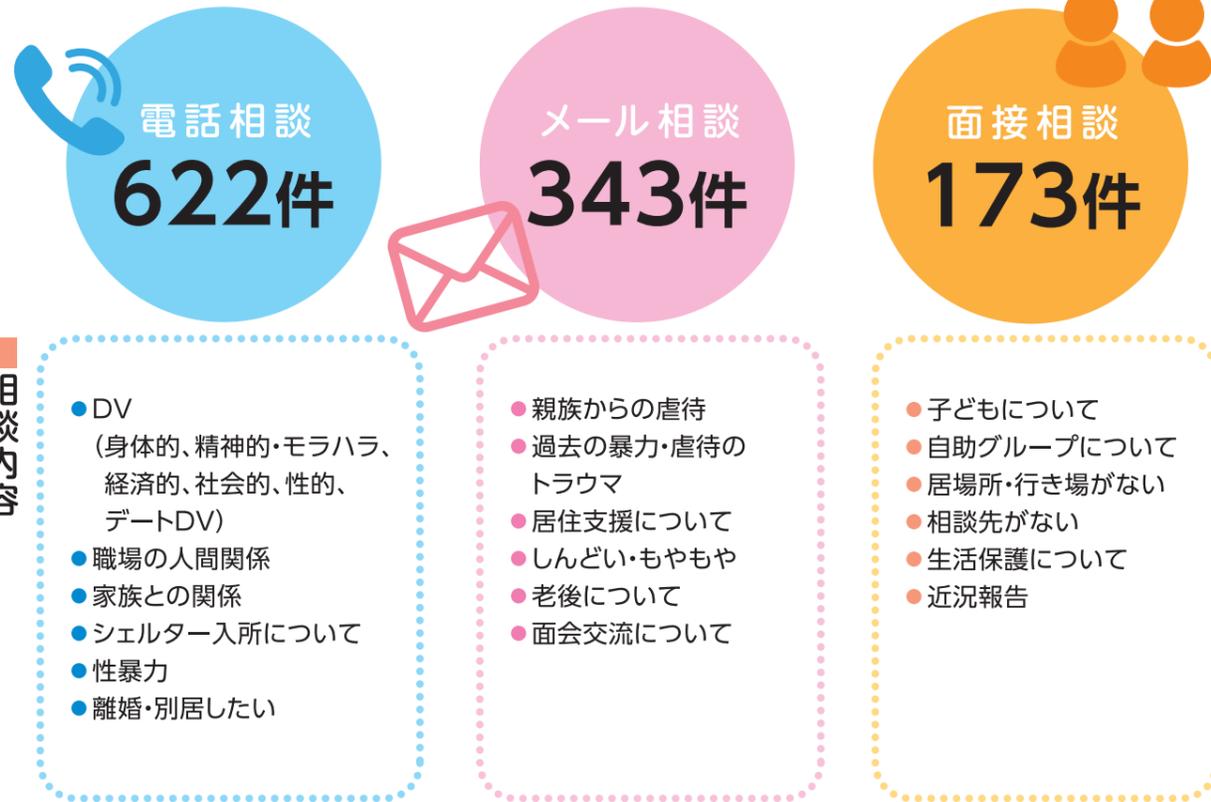
未来につながる

- WACCA 子ども基地…P11
- デートDV防止授業…P12

相談事業

DVの被害を受けている方を始め、パートナーの言動に不安を感じている方からのご相談を受け付けています。
電話相談、面接相談、メール相談を行っています。

2022年度実績



— 希望の灯になれるように —

2022年度は新たに県のステップハウス事業や他市の住環境支援事業等に参画し、支援の幅を広げることができました。

昨年同様、DVや家族からの暴力等、若年層からの相談も増えましたが、高齢者からの相談も引き続き多く、長年抱えてきた問題が限界を超えてようやく相談に繋がるということもありました。

DVや虐待という言葉に対する世間の認識も広がってきてはいますが、相談に来られた方からは「DVとは思わなかった」「家庭内のことなので相談しづらく、誰にも相談をしたことがなかった」「私さえ我慢したら仕事も子どもの学校も変えなくていいと思った」等、この問題がまだまだ個人的な問題であり、社会で解決する問題であるという認識になっていないことがうかがえます。

また、相談者と避難後の生活設計について一緒に考えていくとき、「安全も大切にしながら相談者のこれまでの経験が活かされるように対応することがその後の生活を支える力になる」と相談者の話から学ぶこともありました。

DV防止法やストーカー規制法の改定をはじめ、来年には「困難女性支援法」の新法が施行されます。困難を抱えた女性が一人でも多く、一日でも早く自分を取り戻すことができるよう、当団体が希望の灯になれると思います。

引き続き、官民そして民間の関係機関との連携を強化し、支援の幅を広げられるよう、スタッフ一丸となって取り組んでいきます。

2023年度から電話相談の時間が変わりました！
利用者の方がより相談しやすくなるように、週に一度夜間も対応いたします。



面接相談の様子。
専門スタッフが対応し、秘密は固く守られます。

ご利用者の声



Aさん

相談にのっていただいたおかげで、あきらめていた、離婚という決断をようやくすることができました。新しい人生を歩んでいくと思うと、緊張もしますが、自分でできたことでちょっぴり自信がもてました。どうせお前は何もできないと言われて続けてきましたから。

これからの人生どうなるか、不安でたまりませんが、よくそこまでやれたねえ、とか、ほめてもらえて、私の決断はまちがっていないと思えました。継続して見守ってもらえることで安心感があります。



Bさん

DV・性暴力被害者サポートライン

- 電話相談 078-754-9333(月・水曜日 12時～18時、金曜日 14時半～20時半)
- メール相談 womens-soudan@mbr.nifty.com
※メール相談は、原則関西圏の方のみのご相談とさせていただきます。ご了承ください。
- 面接相談 費用：無料
予約電話番号：078-754-9333

ともだちの家

女性や子どものための緊急避難施設(シェルター)を運営しています。



入居
32件

- 入居 32件 計63名
- 大人 33名
- 同伴者(子ども含む) 30名
- 延滞在日数 1,058日
(子どもの延滞在日数含む)

2004年の開設以降、
合計420件の受け入れを行いました。

— 民間シェルターとして —

2022年度、ともだちの家の入居件数は32件でした。配偶者による暴力からの避難だけでなく、親からの虐待などにより家庭に居場所のない若年女性の利用も昨年あたりから増えてきています。

長年にわたる配偶者からの暴力のため今までゆっくり眠れなかった方や、多くの不安を抱えながら出て来られた方に、ほっとしていただけるようお部屋の準備をしています。暴力を目撃し、安心・安全な環境ではなかった子どもたちも同じです。持てるだけの荷物を持ち、理由も聞かされず家から出てきた子どもたちに、「ともだちの家」がどんな場所なのかを話して安心してもらい、短い間ですが日々の丁寧な関わりを通して、自分らしさや他者への信頼感を取り戻して新しいスタートができるようにサポートしています。

シェルターには面接をしてから入居日時が決まる方や、委託契約を結んだ市町からの依頼で入居される方以外に、突然「～時に入所します」というような緊急の入所もあり、計画通りでないことも多々あります。求められたらいつでも応える準備をしていますが、年末年始や連休時の対応・急な夜間対応など、民間シェルターならではの課題にもぶち当たった一年でした。

夜眠れない方、鬱的な方、精神疾患をお持ちの方、発達の問題を抱えた子どもへの対応などに、今後も精神科医や地域の障がい者支援センターとの連携を深めていく必要を感じています。

■ご利用者の声■



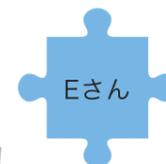
Cさん

これから私は困難における方々を助ける側になるため、頑張っていきます。

子どもにも向き合えるようになり充実した日々を過ごすことができました。次は二人で楽しく今まで子どもにしてやれなかったこと、自分のしたかったことを全てしたいです。



Dさん



Eさん

この支援を利用させていただき、もうじき一年になります。「慣れない生活。誰も知人がいない。」と、孤独な時もありましたが、否定的に考えたらそこで終わってしまうと思いました。ちょっとくじけそうなときは、文章を声に出してみる。「あまつゆしのぐ場所があること。安心安全な生活が過ごせていることに感謝。」感謝してみる。安心安全に。

ステップハウス

シェルターよりフレキシブルな、見守りのある中期滞在施設。2022年度は県営住宅ステップハウス事業の委託を受けました。

2022年度実績

ステップハウス1
(ファミリー向け)
大人5名
同伴者(子ども含む)4名
延滞在日数 184日

ステップハウス2
(単身向け)
大人3名
延滞在日数 566日

ステップハウス3
(単身～ファミリー向け)
大人2名
同伴者1名
延滞在日数 505日

ステップハウス4
(単身～ファミリー向け)
大人3名
同伴者1名
延滞在日数 421日

ステップハウス5
(ファミリー向け)
大人4名
同伴者8名
延滞在日数 166日

— 新たな自立をつかむ場所に —



2020年のステップハウスの新規開設から3年目を迎えました。

自立意欲はあるものの、現時点では自己資金が不足している、就労できていない……など、自力での賃貸契約が難しい方々の生活再建のためのステップハウスは、入居の希望が次々とあります。

今年度は、県からDV被害者のためのステップハウス運営の委託を受け、県営住宅の空き住戸を活用し、新たに3戸を開設することができました。

ここでは主に、転居に伴うお子さんの保育所探しや転入学を始めとする行政手続き等の同行支援、新しい生活が軌道に乗るまでの見守りや相談対応を行い、恒久住宅へ移れるまでの自立を支援しています。

シェルターより柔軟な対応ができるため、行政からステップハウス利用に関するお問い合わせを受けることも増えています。また、単身者の中でも特に親からの虐待で避難してきた大学生や専門学生のニーズが増え、弁護士の協力も得て、安心して学業に励めるようステップハウスでの生活の見守りをしています。

■ご利用者の声■

居住支援

当団体は、2019年に兵庫県居住支援法人の指定を取得しました。シングルマザーや離婚を考えている女性、シェルターやステップハウスの入居者のお部屋探しをしています。

2022年度実績

居住支援
利用実績

相談 101件
成約 40件

REHUL
事業実績

入居 3件

支援の流れ

① メール対応



② 面談
(1時間程度)



③ 不動産業者に
物件案内を依頼



④ 内覧に同行



※REHULとは、あまがさき住環境支援事業(生活困窮者などへの居住支援として、尼崎市が市営住宅の空き家を活用して実施する事業)です。ウィメンズネット・こうべも参加しています。

—多様な女性たちに寄り添って—

2022年度は、2019年に県の居住支援法人に指定されて以降、相談件数、成約数ともに最多の数字となりました。DV被害者や離婚を考えている女性を中心に、20代前半から70代後半までの幅広い年代の女性から相談が寄せられ、経済状況の悪化を反映し、家賃が安い物件への住み替えを希望する相談も目立ちました。

「保証人がない」「初期費用が用意できない」「子どもたちが勉強できる部屋を」など、女性たちの悩みは、現在の制度では解決できないものが少なくありません。そこで、当団体では独自に二つの新しい試みに取り組みました。

一つめは「母子のためのおうちプロジェクト」で、初期費用が少ないシングルマザー世帯を対象に、転居に必要な資金を支援し、12世帯の新生活を応援しました。二つめは尼崎市の市営住宅の空き家活用事業「REHUL(リーフル)」への参画です。古い団地を改修し、3世帯に低廉な家賃で住まいを提供しました。

「家探しだけでなく、入居後もなんでも相談できてありがたかった」との声も多くいただきました。2023年度は六甲ウィメンズハウスの入居者募集とサポートを軸に、相談からその後の生活まで寄り添う伴走型の支援を継続します。

■ご利用者の声■



Fさん

いざ、離婚したくても、急だった貯金もない状況の女性は沢山いるかもしれないので、この支援が私たち家族のように救いになるのを願っています。

経済面ではもちろんですが、気持ちの面でも本当に助けられました。



Gさん

同行支援&家庭訪問支援

■同行支援

主な同行先：警察、病院、役所、弁護士事務所、裁判所、不動産屋、家探し内覧、買い物など

同行支援件数
544件

面談に来られた方やシェルターに入っている方など、当事者の日常生活を取り戻すために、ニーズに応じて役所や家庭裁判所、DVセンターなどの関係機関へ同行支援をしています。

スタッフは当事者と同じ位置に立ち、話し合いをしながら顔の見える関係性をつくっていきます。その方の心身の状況と変化、または子どもとの関係性や学校・地域との状況などを理解し、孤立させないような支援が重要だと思っています。

ある方は新居住地での生活が始まると同時に離婚調停が始まり、家庭裁判所に行くのに同行を希望されました。裁判所に行く途中や建物内で夫にバッタリ出会うかもしれないことが大きな恐怖心になっていました。様々な差はありますが、大きな不安感や恐怖感がトラウマになり、意識をしないままに心に張り付いてPTSDを抱えておられ、不安と恐怖感で一瞬にして頭が真っ白になり、何も考えられない状態に陥ることになってしまう方もいます。

自分が支援する立場でえらい人と勘違いするなかれ、謙虚に支援をしようを忘れることなかれ。当事者を尊重し自立できる力を持っていることを、信じ続けたいと思っています。

■家庭訪問支援

2022年度実績

神戸市内
月2回×10世帯

兵庫県内
月2回×2世帯



訪問に行っているある女性は、昨年出産をされたシングルマザー。初めての育児の戸惑いや不安の日々を支援しました。色々な社会資源も利用されましたが、父親の認知もなく経済的な支えもない状況を目にした私たちは、なぜ母親だけがすべての責任を負わされるのか、父親はなんら社会的制裁も受けない現実に強い矛盾を感じました。保育所に子どもを預け復職した彼女は、病児保育も利用していましたが、保育所と仕事の往復で時間も心も体も余裕がなく、疲れ果てていないか気がかりです。私たちとの繋がりがだけでなく、子どもに保育が欠かせないように、ひとり親たちにも継続して人と交わり繋がれる時と場所が必要だと感じました。その社会の仕組みがあると親子共に安心し、健全に過ごせるのではないのでしょうか。

WACCA

(わか…women and children care center)

さまざまな困難を抱える女性やシングルマザーと子どもたちの居場所、および生活再建のための中長期支援の場です。

■ WACCA b (ふらっと)



2022年度
来所者数
1,795名

相談
165件

ひとり親の
大人の学習
42回

フードパントリー
24回

— 多くの「目」で孤立を防ぐ —

WACCA b (ふらっと)は従来通り4つの柱である居場所、相談、大人の学習、フードパントリーを中心に相談から次のステップへと「つなぐ」ことを目指し、活動を続けています。

相談内容が重層化する中、私たちWACCAだけで対応するには限界を感じており、子どもの不登校、母子関係、面会交流で体調を崩す、過去のトラウマ経験による人間関係など、就職をされても山積みの問題で心身に影響を受けている方も少なくありません。

WACCAでは母子両方の支援をしているので、そういった問題を内部のスタッフと情報共有し、更に必要な場合は他機関とも連携しています。

私たちは、WACCAだけではなく多くの「目」が母子に行き届くことが、母子を孤立させないことに繋がると考えています。今後もできるだけ丁寧な支援を目指し、他機関との連携も積み重ねていきます。

■ ご利用者の声 ■

Hさん

WACCA 塾から相談、パントリーなど利用させていただき、経済的・心理的サポートのおかげで孤立せずにとっても助かっています。



Iさん

夫のDVから小さな子どもを2人連れて別居し、どうすれば良いか途方に迷っていたなか、親身な相談や支援をいただき本当に心強かったです。

■ WACCA+ (ぷらす)

2022年度も兵庫県委託で「DV被害者等の自立に向けた中長期支援拠点事業」を2つの柱で実施しました。



- 法律相談…17件
- 女性の悩み相談…19件
- オープンダイアログ…70件
- WACCAぷらす相談…103件
- メール/LINE/電話相談…23件
- 自助グループ(オリーブの会)…37名
- 自助グループ(コスモスの会)…42名

相談

居場所

- ボランティアの日…延288名
(軽作業などを通じたウォーミングアップの活動)
- 読書会、絵本カフェ、おしゃべり会…延283名
(人が集いエンパワメントできる居場所)



— 「なくてはならない場所」として —

2022年度は、居場所づくりをさらに充実させた年となりました。毎週火曜日の「ボランティアの日」では、参加者が自主的に衣類のアイロンがけや発送などの軽作業を行ってくれました。作業が終わった後で一緒にお茶を飲んだり、昼ご飯を食べたりすることも楽しく貴重な時間となりました。一人暮らしをされている参加者の方が多いので、「家にいると会話の時間がほとんどないので、ここに来るとおしゃべりができて嬉しい」という声もありました。そのほか、小さな読書会、てつがくカフェ、Coco*さろんなどの居場所も定期的に開催したことで、それぞれ違う方々が集まり、参加者は自分に合った居場所を自由に選ぶことができたと思います。

相談件数も増加し、オープンダイアログも定期的に行うことができました。また、コスモスの会、オリーブの会と2つの自助グループを実施できたのも2022年度の成果で、グループの助け合う力を実感することとなりました。

WACCAは、WACCA b とWACCA+に分かれて活動をしていましたが、WACCA+の場所が移転になり、現場での活動は2023年5月をもって終了することになりました。他にモデルのないWACCAの活動は試行錯誤の連続でしたが、年月を重ねるに従い、参加者にとって「なくてはならない場所」としての存在を確立できたように思います。WACCA+の機能は今後も引き継がれるので、また新たな気持ちで、参加者の仲間たちと新しい居場所づくりに取り組んでいきます。

■ 冊子「わたしたちの RESTART」

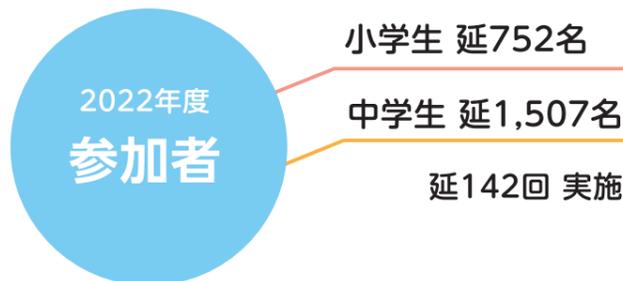
2023年にWACCAは10周年を迎えました。このたび、これまで関わってきた方たちへ執筆を依頼し、「わたしたちのRESTART」という冊子を作成しました。



WACCA子ども基地

ひとり親家庭の子どもたちのための居場所。
2022年度より「WACCA塾」と「あそび基地」
の2本柱で運営しています。

WACCA塾 週3回の無料学習支援



WACCA塾は、2022年度も30名を超えるボランティアの方々の協力のおかげで、週3回の学習支援を続けることができました。そして、12名の中学3年生全員が無事に高校進学を果たしたことはWACCA塾に関わったすべての人の大きな喜びになりました。不登校や引きこもりの生徒もいましたが、それぞれ定時制や通信制の高校に進学しました。3年ぶりの「卒業生を送る会」でボランティアさんの前で「高校に行ったら部活がんばります!」「アルバイトもしてみたい!」と晴れ晴れとした顔で語ってくれた姿に感動しました。偏差値だけでは測れないそれぞれの選択を、悩みながらも自分で決めたことはこれからの人生できっと自信になると信じています。WACCA塾は今後も学習支援、そして子ども達を見守る居場所として継続していきます。



アスレチックに遊びに行った様子

あそび基地 月1回のあそびの居場所



毎月第4土曜日になると、3歳から小学6年生までの子どもがママと一緒にWACCAにやってきました。スタッフやボランティアさんとたっぷり遊ぶためです。時にはBBQやフィールドアスレチックに行ったり、ハロウィンやクリスマスと一緒に楽しんだりします。なかにはしんどいことを抱えている子もいますが、この時間は本当に元気に笑っています。子ども同士の関わりがうまくいかなかった子が回を重ねるごとにどんどん輪の中に入れていけるようになっていたり、ママから離れられなかった子がいつの間にか一人で遊んでいたりする様子を見ると、子どもの成長を感じます。
今後も遊びを通じて変わっていく子どもたちの姿を丁寧に見守っていきたいと思います。

デートDV防止授業

これまでのDV被害者支援の経験を生かした実践的なデートDV防止授業を、小・中・高・大学生に実施しています。

2022年度実績



— 諦めずに少しずつでも進む —

2022年度も依頼を受け、中学校・高等学校・大学・専門学校・企業や地域の方などにデートDV防止授業・講座を届けました。
どの回でも、受講生の皆さんは熱心に聞いて参加してくださり、授業内容に対する強い関心を感じました。少しでも未来に役立ててもらえたらと願っています。
コロナ禍の中、2020年度、2021年度の実施数は以前に比べて2割～3割減となっていました。2022年度ではその数も戻り、やや増加しました。なかでも中学校からの依頼が増えています。早期の予防教育がより効果的であるとの観点から、これまでの活動の成果を感じるとともに、今後の普及にも期待が持てます。
コロナ禍以降、オンラインによる授業も増えていましたが、2022年度には対面形式に戻した学校も多くありました。授業形態は多様化する傾向にあります。
定期的に講師間で検討会議を開き、これらの現状に対応するため検討を重ねています。使用するスライドや説明文の内容、データの差し替え等、授業の内容も常に精査しています。
また、毎年養成講座を実施し、講師の育成にも努めています。授業の普及のため、依頼の増加にも応えていける体制づくりが重要です。
最新のジェンダーギャップ指数において、日本は125位で過去最低となりました。道のりはまだまだ長いですが、これからの世代の人たちに期待しながら、諦めずに少しずつでも進んでいかねばと思っています。
この授業をより多くの人に届け、暴力のないジェンダー平等社会の実現に向けて活動していきます。

■参加者の声■



今日の授業を活かし、デートDVをしない・させないために対等な関係をつくりたい。もし友達がデートDVを受けていたら、今日身につけた知識を活かし、相談に乗ってあげられるようにしたいです。

対等な関係をつくるには相手も自分も尊重することだと知れた。NOとは言いにくいけど、思いきってNOと言うことが大切。



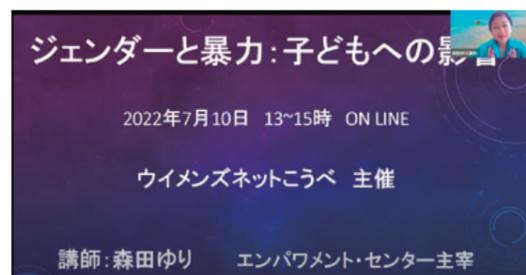
2022年度 わたしたちのトピックス

設立30周年記念 無料オンライン連続講座 「ジェンダー平等社会の実現に向けて」開催！

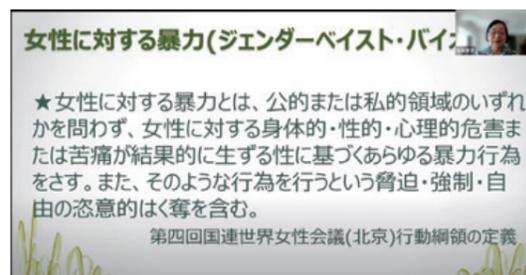
団体設立30周年を記念して、全5回の無料連続オンラインセミナーを開催しました。
こうしたオンラインでの連続講座は初の試みでしたが、全国から延1,293名のお申し込みがありました。参加者からも高評価を得ており、良い学びの機会となりました。
セミナー実施後は、申込者に限って、ウィメンズネット・こうべの公式 YouTubeアカウントにて講座内容を限定公開し、当日参加できなかった申込者のための見逃し配信を行いました。



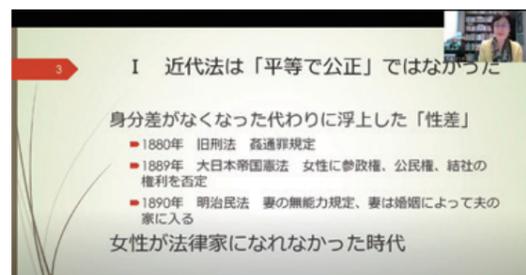
2022年6月19日
「女性と居住貧困」
講師：葛西 リサ



2022年7月10日
「ジェンダーと暴力～子どもへの影響～」
講師：森田 ゆり



2022年8月21日
「DV被害者支援の実態」
講師：近藤 恵子、正井 禮子、茂木 美知子



2022年9月18日
「ジェンダーと法律」
講師：浅倉 むつ子



2022年10月16日
「ジェンダーと教育～デートDV防止授業の必要性と実践～」
講師：山口 のり子 当団体所属デートDV防止授業講師



女性のためのつながりサポート神戸

2022年5月～7月 女性のためのほっとスペース 3回開催
2022年8月～2023年2月 女性による女性のための相談会 4回開催
会場 あすてっぶKOBÉ
来場者数(総数) 876名
相談者数(総数) 93人



前年度に続き、女性の孤独・孤立対策事業である「つながりサポート事業」の委託を神戸市から受け、手作りやヨガのワークショップとおしゃべり会を中心とした「女性のためのほっとスペース」と、弁護士、司法書士、ファイナンシャルプランナーなどの専門家相談員を擁したワンストップ相談会「女性による女性のための相談会」を計7回開催しました。同時に食糧支援や生理用品などの無料提供も実施し、シングルマザー世帯を中心に、毎回大勢の来場者で賑わいました。

前年度からの温かい雰囲気はそのままに、専門家による相談の種類と人数を拡充し、ワークショップでは自然素材を使った工作など、子どもと一緒に参加できるものを実施しました。「スタッフの方が優しく話しかけてくれてほっとした」「悩みを初めて相談することができた」「物価高で生活が苦しい。食料品がありがたい」という感謝の声をたくさんいただきました。
2023年度も引き続き相談会とほっとスペースを開催する予定です。

養成講座

ともに活動する仲間を増やすため、毎年講座を開催しています。2022年度では、「デートDV防止授業トレーナー養成講座」と「DV被害者支援ボランティア養成講座」を行いました。

①デートDV防止トレーナー養成オンライン講座

開催日 2022年9月10日・11日

参加者 8名

講座終了後、2021年度を受講生とあわせて複数名が学校見学・追加講習といったトレーニングに進み、3名が新たにサブ講師としてデビューしました。



「DV被害者支援ボランティア養成講座」
講義の様子

②DV被害者支援ボランティア養成講座

開催日 2023年 2月12日・26日(2日間4講座)

参加者 延 65名

2021年度同様、2022年度も対面で講座を開催することができました。講義だけでなく参加型のワークも実施し、参加者からは、「当事者の心情の流れが想像できた」「伴走型支援の必要性を改めて感じた」といった感想が寄せられました。

「露の団姫 チャリティー落語会」を開催しました!

開催日 2022年12月20日

会場 神戸市男女共同参画センター(あすてっぷKOBE)

六甲ウィメンズハウスの開設資金を集めるため、落語家で天台宗道心寺住職である露の団姫(つゆのまるこ)さんを迎え、落語会を開催しました。

当日は昼の部・夜の部と二回に分けて開き、露のさんの落語とトークが展開されました。トークは露のさんの高校時代の体験から女性の権利の話まで多岐に渡り、昼の部・夜の部ともに盛況のうちに終わり、実りのある会となりました。



落語会の様子

「六甲ウィメンズハウス」クラウドファンディング実施しました!

2022年11月4日から2022年12月22日まで、公益財団法人神戸学生青年センターと共同で六甲ウィメンズハウス建設費用のためのクラウドファンディングを実施しました。

支援者に対する働きかけ方などの課題は残りましたが、最終的に381名から6,518,500円をご支援いただきました。

応援・ご支援いただいた皆様、本当にありがとうございました! まだまだ乗り越えなければならない壁はありますが、六甲ウィメンズハウス開設に向け、今後とも頑張っております。



六甲ウィメンズハウス、動き出しました!

ウィメンズネット・こうべ設立30周年記念事業としてスタートした六甲ウィメンズハウスプロジェクトは、本年度、本格的に始動しました!

六甲ウィメンズハウスは、「ここにしか住めないではなく、ここに住みたいと思える住まいを」を理念として長年にわたって実現を思い描いてきた、総合的な支援付き住居です。同ハウスは、シングルマザー・DV被害女性・生活困窮女性・若年女性・女子留学生など困難を抱える女性のための住宅を兼ね備える他、シェアリビングやシェアキッチン、スタディールームにキッズルームなどの共用スペースを設けます。さらにハード面だけではなく、支援員が常駐することにより、日常生活相談支援を行うほか、食糧支援や就業支援など、生活を再スタートさせる支援を行います。

長らく“夢”であったウィメンズハウスは、生活協同組合コープこうべから旧女子寮を借り受け、同プロジェクトに賛同し協力してくれることとなった公益財団法人神戸学生青年センターとの共同プロジェクトとして、実現することとなりました。

2022年8月23日には、国土交通省「人生100年時代を支える住まい環境整備モデル事業」に採択されました(採択事業名「困難を抱える女性が安心して暮らせる六甲ウィメンズハウス事業」)。評価委員より、「実績のある団体の提案であり、物件を提供する企業と地域の支援者が手を組むコンソーシアム型の実施体制も評価される」との評価をいただきました。

2022年度は、六甲ウィメンズハウスオープンのための旧女子寮改装やその後の運営体制整備に向けた準備および資金調達を実施しました。実務面では、週1回プロジェクトにかかわる実務メンバーによる会議を実施し、また月1回プロジェクト全体での意思決定のための会議を定期的に実施しました。また、運営体制整備のため、東京および九州における先駆的な事業を実施している民間団体を訪問し、運営に関するノウハウを学びました。

資金調達としては、居住支援基金を設立し広く六甲ウィメンズハウスのためのご支援を募るほか、2022年11月~12月には改装のためのクラウドファンディングを神戸学生青年センターと共同実施し、381名から6,518,500円のご支援をいただきました。さらに、露の団姫さんのご協力を得て、12月にはチャリティー落語会を実施しました。

本年度は多数のメディアにも六甲ウィメンズハウスについて取り上げていただきました。2022年9月から2023年3月の間に、NHK神戸放送局、サンテレビ、日本経済新聞、毎日新聞、神戸新聞、朝日新聞、ふえみん婦人民主新聞にて取り上げていただき、多くの反響をいただきました。

2023年はとうとう改装とオープンに向けた準備最終年です。引き続き、皆様からの温かいご支援をよろしくお願いいたします。



2022年度 会計報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

| 科目 | 科目 | 決算額 |
|-----------|--------------|-------------|
| 1.経常増減の部 | | |
| (1)経常収益 | | |
| 受取会費 | | |
| | 正会員受取会費 | 160,000 |
| | 賛助会員受取会費 | 418,500 |
| | 受取会費計 | 578,500 |
| 受取寄付金 | | |
| | 受取寄付金計 | 43,272,720 |
| 受取助成金等 | | |
| | 受取助成金等計 | 28,802,547 |
| 事業収益 | | |
| | 事業収益計 | 32,143,398 |
| その他収益 | | |
| | その他収益計 | 161,164 |
| | 経常収益合計 | 104,958,329 |
| (2)経常費用 | | |
| 事業費 | | |
| | 【人件費】 | |
| | 【人件費計】 | 32,209,885 |
| | 【その他費用】 | |
| | 謝金など | 6,066,294 |
| | 消耗品費など | 8,489,826 |
| | 水道光熱費 | 989,146 |
| | 地代家賃 | 9,262,611 |
| | 通信運搬費 | 1,240,520 |
| | その他経費 | 9,151,216 |
| | 【その他費用計】 | 35,199,613 |
| | 事業費計 | 67,409,498 |
| 管理費 | | |
| | 【人件費計】 | 612,804 |
| | 【その他費用】 | |
| | 【その他費用計】 | 4,189,173 |
| | 管理費計 | 4,801,977 |
| | 経常費用合計 | 72,211,475 |
| | 当期経常増減額 | 32,746,854 |
| 2.経常外増減の部 | | |
| (1)経常外収益 | | |
| | 過年度損益修正益 | 1,997,000 |
| | 経常外収益合計 | 1,997,000 |
| (2)経常外費用 | | |
| | 建物火災損失 | 7,255 |
| | 経常外費用合計 | 7,255 |
| | 当期経常外増減額 | 1,989,745 |
| | 税引前当期正味財産増減額 | 34,736,599 |
| | 法人税、住民税及び事業税 | 122,000 |
| | 当期正味財産増減額 | 34,614,599 |
| | 前期繰越正味財産額 | 60,289,812 |
| | 次期繰越正味財産額 | 94,904,411 |

ウィメンズネット・こうべのあゆみ

- 1992年 男女平等社会の実現を目指す女性グループとして「ウィメンズネット・こうべ」発足
- 1994年 「女たちの家」開設 (阪神淡路大震災により閉鎖)
- 1995年 阪神淡路大震災発生
「女性支援ネットワーク」立ち上げ
「女性のための電話相談」開設
- 1996年 DVに関する学習会を開始
自助グループ「コスモスの会」発足
- 2001年 「DV被害者のためのサポーター養成講座」開始
- 2002年 「DV被害者サポートライン (電話相談)」開設
兵庫県社会福祉協議会
「元気アップアワード・グランプリ」受賞
- 2003年 ジョイセフ「加藤シズ工賞」受賞
- 2004年 女性と子どものための緊急一時保護施設 (シェルター) 開設
- 2007年 NPO法人格を取得
学校現場で「デートDV防止授業」開始
「シングルマザー支援及び仲間づくり講座」開始
- 2013年 女性と子どもの支援と仲間づくりのための居場所「WACCA」開設
困難を抱える女性の支援及びシングルマザーの子どもを対象に学習支援開始
「第6回ゆめづくりまちづくり賞」受賞 (国土交通省主催)
井植記念会より「井植文化賞」受賞 (社会福祉部門)
- 2015年 認定NPO法人資格取得
フードバンク関西、フリーヘルプとの協働事業で、「子ども元気ネットワーク関西」発足
- 2016年 (公財) 社会貢献支援財団より「社会貢献者表彰」受賞
- 2017年 未来を強くする子育てプロジェクト
「スミセイ未来賞」受賞
- 2018年 代表の正井禮子が2018年度「チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞」受賞
ソロプチミスト日本財団よりWACCAの活動に対して「社会ボランティア賞」受賞
- 2019年 兵庫県居住支援法人に認定される
令和元年国土交通省居住支援法人活動支援事業に選定
- 2020年 WACCAb、及びステップハウス開設
「第5回 貝原俊民美しい兵庫づくり賞」受賞
- 2021年 (公財) 社会貢献支援財団より「創立50周年記念表彰」受賞
「女性のためのつながりサポート神戸」実施

ご支援ありがとうございました

私たちの活動は皆様のご支援により支えられています。
今後もDV被害など困難を抱える女性と子どもの支援を続けるため、尽力してまいります。



- マンスリーサポーター (オンライン寄付) 19名
- 個人の方からの寄付 472名
- 正会員 31名
- 賛助会員 85名
- クラウドファンディング「困難を抱える女性や母子が安心して自立へと歩み出せる「住まい」をつくろう!」381名
- フリーヘルプ様 (チャリティーショップ) からの寄付商品の売り上げの一部を、当団体の活動資金として、毎月ご寄付いただきました。



2022年度に 協力、寄付金、物品援助を いただいた企業・団体の皆様

- 認定 NPO 法人フードバンク関西
 - NPO 法人フリーヘルプ
 - 特定非営利活動法人 すまみらい
 - 認定 NPO 法人 CS 神戸
 - 生活協同組合コープこうべ
 - 公益社団法人 日本フィランソロピー協会
 - 国際ソロプチミスト各団体
 - 特定非営利活動法人おてらおやつクラブ
 - 米日財団
 - 一般社団法人
ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン
 - 一般財団法人日本善意財団
 - 神戸市社会福祉協議会
 - 株式会社ロゴナジャパン神戸本社
 - 株式会社神戸物産
 - 三和パッキング工業株式会社
 - イソップ・ジャパン株式会社
 - P&G ジャパン合同会社
 - 公益財団法人社会貢献支援財団
 - 未来シフト株式会社
 - 株式会社みらいらべる
 - 株式会社 U (N) NEED
 - フィッシュ・ファミリー財団
ジャパンオフィス
- (順不同)

その他、匿名の企業・個人の皆様等、
団体をご支援して下さった皆様

活動をご支援ください

DVなど困難を抱える女性や子どものために
ウィメンズネット・こうべを応援してください

私たちへのご寄付は
寄付金控除の
対象です

資金調達

8/21～「六甲ウィメンズハウス」クラファン開始!

六甲ウィメンズハウスをつくるためのクラファンを実施します。改修工事費を集めるため応援よろしくお願いたします。



詳細はこちら

寄付で 応援

マンスリーサポーター募集中!

クレジットカード決済によるオンライン寄付
月 1,000 円からのご寄付で、DV などの困難を抱える女性と子どもの
サポーターになりませんか?



詳細はこちら

銀行振込

三井住友銀行 須磨支店 (普通) 3803910
名義人 NPO 法人女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ

※銀行振り込みでご寄付をいただける場合お手数ですが、お名前・ご住所を別途、メールあるいは FAX で必ずお知らせください。

郵便振替

郵便振替口座：00990-3-330322
加入者名：女性と子ども支援センター

遺贈 (遺産の寄付) をお考えの方は、
ご相談ください。

会員として 応援

正会員 (個人) 1 口 10,000 円 総会の決議権あり
賛助会員 (個人) 1 口 3,500 円 総会の決議権なし
賛助会員 (団体) 1 口 10,000 円 総会の決議権なし

会費振込口座 郵便振替口座 00990-3-330322
加入者名 女性と子ども支援センター

団体の趣旨と活動に賛同
してくださる方は、ぜひ
会員になってください。

物品で 応援

シェルター生活者やシングルマザーと子どもたちへの食品、日用品などの物品の提供をお願いします。物品の提供支援をお願いできる方は、事前に連絡をお願いします。

(TEL 078-754-9320)

また、DV 被害者が安心して日常生活に戻るために、安心できる住居 (アパート・空家) や仕事をご提供下さい。詳しくはお電話、メール、ホームページ お問い合わせフォームのいずれかよりご連絡ください。

ボランティア 募集

電話相談、同行支援、シェルター支援、事務、広報、パソコン、資金調達経験者、当団体に関心のある方など、ボランティアを幅広く募集中です。保育・学習支援の登録ボランティアも募集しています。



応援メッセージいただきました



田上 時子 様 (NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西 理事長)

ウィメンズネット・こうべは、女性と子どものエンパワメントを活動目的にする姉妹 NPO として、設立時からシスターフッドで支持しています。

困難を抱える女性と子どもたちの生活支援事業を次々と具体化する行動力と情熱と努力に深い敬意を抱いています。

六甲ウィメンズハウス設立は一大プロジェクトで産みの苦しみもあると想像しますが、引き続き、ウィメンズネット・こうべの活動が成功を収めることを祈り、サポートしたいと考えています。



東 信吾 様 (一般社団法人 ソーシャルビジネスバンク 代表理事)

困難な境遇に置かれている女性や子どもたちを、いつも温かく支援しているスタッフの皆様を尊敬しております。以前ご紹介した神戸の経営者が、正井代表の話に心を打たれ、サポートを即決しました。多くの人にウィメンズネット・こうべさんの想いや活動内容を知ってもらいたいです。私ができることは微力ですが、ウィメンズネット・こうべさんと企業や経営者を繋ぐ橋渡し役になれるように頑張ります。

多くの応援をいただきありがとうございます!

困難を抱える女性や子どもが自分らしく生きられる社会を目指し、これからも活動を続けていきます。

— 30周年を迎えて —

1992年に女性の人権を守りジェンダー平等社会を実現することを目標にウィメンズネット・こうべを発足してから、2022年で30周年を迎えることができました。多くの皆様からのご支援、スタッフやボランティアの熱意があったからだと心より感謝申し上げます。

94年に「女たちの家」を開設し、その翌年の震災を契機にDV被害女性と子どもの支援が当団体のメインの活動となりました。2004年には民間シェルター「ともだちの家」を開設し、これまでに420世帯（内子ども495人）を保護しました。2013年にその後の居場所としてWACCAを開設し、今日に至っております。心のケアや仲間づくり、女性と子どもの双方に学習支援を提供する等、生活再建を応援しています。「子どもたちが地域の信頼できる大人と一人でも繋がって欲しい」というのが多くのシングルマザーの願いであり、「WACCAに出会えてよかった」という声もたくさん聞いております。支援活動を通してわかったことは、被害を受けた女性と子どもの心の傷の回復には長い時間がかかること、生活再建も厳しく、特にシングルマザーの貧困と孤立、子育てへの支援が不足していることです。「私たちは暴力か貧困しか選べないのでしょうか?」・・・加害者は罰せられることなく、被害者のほうが仕事や学校、コミュニティを捨てて見知らぬ土地へ逃げなくてはいけないという理不尽な現状を変えたいと強く願っています。

2020年の内閣府DV調査によれば、日本の成人女性の4人に1人がDV被害を経験し、その内5人に1人が命の危険を感じるほどの暴力を経験しています。概算すれば195万人にのぼります。しかし、現状は10人に1人しか家を出ていません。経済的見通しがたたない、出ていく先がない、教育費の不安等、経済的要因が大きいです。

既にご存知かと思いますが、当団体では2024年春の開設を目指し、住まいの確保が困難な女性や子どものための「六甲ウィメンズハウス事業」にも取り組んでいます。NPO（公益財団法人神戸学生青年センターと当団体との共同事業）と企業（生活協同組合コープこうべ）が連携して社会貢献の建物をつくる、しかもジェンダーの視点を持つ事業は日本では極めて先駆的であり、本事業が各地に広がり、さらには日本の居住福祉の政策の拡充につながることを期待しています。

2023年度のジェンダーギャップ指数で、日本は146ヶ国中125位（64.7%）。政治分野は世界138位。収入や企業の役員・管理職の割合での平等も進まず、経済分野も世界123位と低迷しています。DVや性暴力はGBV（ジェンダーに基づく暴力）と言われ、解決にはジェンダー格差の解消が不可欠です。若い人や地域住民へのジェンダー平等教育の推進と、政策決定の場に女性を増やすことではないでしょうか。幸い、当団体では若いスタッフも増えています。個人に寄り添った支援の充実と、現場で見えてきた課題を政策の場に届けていきたいと思っております。今後とも息の長い応援をよろしくお願いいたします。

認定NPO法人女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ

代表理事 正井 禮子



団体概要

| | |
|------|--|
| 名 称 | 認定NPO法人 女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ |
| 設 立 | 1992年4月1日（団体設立日） 2007年4月2日（法人設立登記日） 2015年3月23日（認定NPO法人格取得） |
| 代表理事 | 正井禮子 |

認定NPO法人女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ

E-mail: womens-net-kobe@nifty.com

TEL・FAX: 078-754-9320

<https://wn-kobe.or.jp/>



WACCA(わっか)

Email: wacca@mbr.nifty.com

TEL・FAX: 078-798-6150

<https://wacca27.wixsite.com/wacca>

